

南昌だより

2019 No. 35
2019年1月1日発行



敬愛荘 本誌 P7



悠和荘 本誌 P9



ケアセンター南昌 本誌 P10



若園荘 本誌 P13



志和荘 本誌 P8



南昌病院 本誌 P14



恒和荘 本誌 P12



紫波郡地域包括ケア推進支援センター 本誌 P15

医療法人社団 帰厚堂

【基本理念】

「愛と誠の精神」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします

また、
信頼される医療を提供するために
全ての専門職種による
チーム医療に万全を期します

社会福祉法人 敬愛会

【基本理念】

「地域と共に生き 地域と共に歩む」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします

また、
信頼される福祉サービスを提供するために
全ての専門職種による
チームケアに万全を期し
その人らしい生活が育まれるよう
支援します

2019 No. 35 Contents

- 2P~5P .. 巻頭言
- 6P..... 職場紹介
- スタッフ紹介
- 7P..... 敬愛荘
- 8P..... 志和荘
- 9P..... 悠和荘
- 10P~11P .. ケアセンター南昌
- 12P..... 恒和荘
- 13P .. 若園荘
- 14P .. 南昌病院
- 15P .. 紫波郡地域包括ケア推進支援センター
- 16P .. 診療案内



医療法人社団 帰厚堂
<http://www.kikodo.or.jp/>

社会福祉法人 敬愛会
<http://www.shiwasou.jp/>



日本医療機能評価機構

改善を重ね地域に貢献

＝ケアセンター南昌・事業評価委員会(外部) 評価の報告＝



ケアセンター南昌 事務長
高橋 裕好

○はじめに

医療福祉多機能ビル・ケアセンター南昌は、平成25年2月の開設以来、高齢者等が住みなれた地域で安心して暮らすことが出来るよう医療や介護等の様々なサービスを提供するとともに、子育て世代の方々が安心して職務に専念できる手助けと乳幼児の健全な成育を支援することを目的に取り組んで参りました。

我が国は今後益々高齢化率が高くなることが確実視されており、国の施策とも相俟ってケアセンター南昌の多くの事業所がそれらの需要に対応していかなければなりません。このような背景を考慮し、ケアセンター南昌開設5年を経過した節目に、今後の中・長期的役割の策定に資することを目的として事業の評価を実施しました。

○評価の方法

評価の観点を7項目とし、5段階方式により評価を実施しました。

○評価のフロー図・内容等(評価の対象は、医療法人社団帰厚堂が運営する事業所)



○観点と評価について【※目的・目標は、事業運営として掲げ取組んだもの。】

観点	目的	目標	評価の観点	外部評価
観点1	1	1.2	ケアセンター南昌業務内容の地域への情報発信と地域や住民からのニーズ把握への取組み	4
観点2	2.3.4	3.4.5.6.7.15	質の高い医療・介護の提供への取組み	4
観点2-1	—	—	利用者の事故防止への取組み	3
観点2-2	—	—	感染症や食中毒防止への取組み	3
観点2-3	—	—	利用者のリフレッシュや地域・ボランティア団体との連携・協力	4
観点2-4	—	—	医療機関との連携に関する取組み	3
観点2-5	—	—	看取りへの取組み	3
観点2-6	—	—	提供している食事内容の妥当性や食事摂取促進への取組み	3
観点3	3.4	8.10	人材育成への取組み	3
観点4	2.3	8.11	職員の健康管理への取組み	3
観点5	2	9.12	防災・減災への取組み	4
観点6	5.6	12.13.14	業務の改善や安定的経営・経費節減への取組み	3
観点7	—	—	不適切事案等の発生とその対応等について	

○ケアセンター南昌自己評価報告書・資料編

- (資料1) ケアセンター南昌・施設見学者一覧表
- (資料2) 南昌福祉の里文化祭への参加者の状況
- (資料3) ケアセンター南昌主催による研修会の開催状況・参加者
- (資料4) インシデント・アクシデント等の発生状況
- (資料5) 感染症に関する職員等への研修会等の開催状況
- (資料6) ケアセンター利用者の他医療機関への依頼等の状況
- (資料7-1) 看取りの対応に際し、家族等に説明する文書の内容
- (資料7-2) 看取りの際の書面による同意文書
- (資料8) 利用者からの嗜好調査結果について
- (資料9) 知識・技術の向上に資するための外部研修会への参加状況
- (資料10) 実習生の受入れ状況
- (資料11) 倫理審査委員会の開催状況
- (資料12) 平成29年度ストレスチェック集団分析結果
- (資料13) 平成28年度年次有給休暇の取得状況
- (資料14) 光熱水費の推移
- (資料15) 年次別・事業所別利用者の状況
- (資料16) 平成29年度ケアセンター南昌事業所別目標と実績
- (参考資料) ケアセンター南昌・施設の概要



※詳しくは、ケアセンター南昌ホームページに掲載しておりますのでご参照下さい。

ケアセンター南昌事業評価委員会（外部）評価報告書

ケアセンター南昌事業評価委員会

◎座長：北村 道彦（町立西和賀さわうち病院長）

委員：村松 徹（矢巾町特命担当課長）

（代理）田村 英典（矢巾町健康長寿課長）

委員：高橋 正子（前矢巾町民生児童委員）

委員：水本 紘一（前矢巾町行政相談委員）

委員：山本 直樹（岩手日報紫波支局長）

委員：高橋登美夫（介護老人保健施設シェーンハイムやはば事務長）

委員：中村 幸夫（介護老人保健施設カルモナ施設長）

平成30年11月30日

目次

I はじめに

II 評価報告書

- 観点1 ケアセンター南昌業務内容の地域への情報発信と地域や住民からのニーズ把握への取組み
- 観点2 質の高い医療・介護の提供への取組み
- 観点2-1 利用者の事故防止への取組み
- 観点2-2 感染症や食中毒防止への取組み
- 観点2-3 利用者のリフレッシュや地域・ボランティア団体との連携・協力
- 観点2-4 医療機関との連携に関する取組み

- 観点2-5 看取りへの取組み
- 観点2-6 提供している食事内容の妥当性や食事摂取促進への取組み
- 観点3 人材育成への取組み
- 観点4 職員の健康管理への取組み
- 観点5 防災・減災への取組み
- 観点6 業務の改善や安定的経営、経費節減への取組み
- 観点7 不適切事案等の発生とその対応等について

III 総括

I はじめに

平成30年11月1日、ケアセンター南昌(以下「ケアセンター」という。)において表記の評価委員会を開催した。委員会では、あらかじめ委員にケアセンターが作成した「自己評価報告書」をご覧いただき、事前に記入いただいた事業評価シートや関連資料を参考として、各委員から観点ごとの意見を聴取するとともに、必要な説明をケアセンターの出席者に求めながら自己評価報告書を吟味した。

後日、委員から出された意見や感想を委員長が集約する形で取りまとめたものを「評価報告書(案)」として各委員へ送付し、再度意見等を聴取した後に最終版としてケアセンター南昌センター長(以下「センター長」という。)吉岡尚文氏に提出した。

なお、中村委員は委員会当日所用により欠席であったが、予め、当日の午前中にケアセンターに自身の評価シートを持参し、センター長に提出されていたものを座長が受け取り、評価報告書に反映させた。

評価委員による評価のスコアは、自己評価の基準に

準じた。委員によりそれぞれの観点到に多少のばらつきが認められたため、委員会の最終評価スコアは委員7人の平均値を四捨五入し、整数で表記した。

また、ケアセンターが自己評価報告書で設定した評価の観点的妥当性や観点到に則した記述がなされているか、観点对する評価は妥当であるかに関しては、全評価委員が妥当であったと評価している。

超高齢化社会を迎え、認知症の増加が現実視されている我が国において、それぞれの地域にはケアセンターのような施設は必要不可欠である。開設5年を振り返る形で質の高いケア提供を目標として、このような自己評価・点検を自発的に実施した点は高く評価したい。

ケアセンターにおかれては、この評価報告書に記された意見を尊重しながら事業を展開し、地域包括ケアシステムの重要な事業主体として、必要な改善を重ねつつ地域に貢献し続ける社会資源として邁進して欲しい。

ケアセンター南昌事業評価委員会

座長 北村 道彦

◎各観点对する評価委員会の意見(II 評価報告書)

観点1 ケアセンター南昌業務内容の地域への情報発信と地域や住民からのニーズ把握への取組み

情報の発信は、各種広報媒体を利用して適切に行われていると判断できるが、広報対象地域を自治会に対してとか、町内、盛岡市等、具体的に記述したほうが良いと考える。また、事業所の空室状況をホームページで案内しているが、ショートステイやはばのみなので、通所や入所、グループホームなど他の事業所の空室状況もリアルタイムで掲示するのが親切である。

また、ニーズの把握に関しても、介護支援相談員や居宅介護支援事業所などを通じて概ね適切に為されている。

特記すべきこととして、法人の職員が「お助け劇団」を組織し、各地に出向いて住民に対する認知症の理解を深める活動をしている点は高く評価できる。

以上により、本観点的自己評価は3であるが、評価委員会としては4と判定する。
(評価3:3人、評価4:3人、評価5:1人)

観点2 質の高い医療・介護の提供への取組み(総論)

利用予定者の入所妥当性の判定会議を事前に行っていることや、勤務交代時の引継ぎを徹底していることは、安全性の面から重要である。事業所によって外部評価を受審し、利用者の満足度調査を行い日常の運営に反映させている。また、ケアセンターとして毎年計画的に職員を対象とした研修会を開催している点は良い取組みであるが、講師の話聞く講演会形式の研修に加えワークショップ形式(参加型)の研修会を行うことも考慮すると良いであろう。可能であれば他の事業所職員も聴講できるよう便宜を図ってはどうか(実際には行っている)。一方、内部の研修とは別に、外部の団体が行う研修会への出席も法人として積極的に支援している。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委員会としては4と判定する。(評価3:3人、評価4:4人)

観点2-1 利用者の事故防止への取組み

ケアセンターとしてインシデントやアクシデントの事例を収集し分析している。ただ、転倒転落の症例の多い点が気になり、分析と対策が必要である(総師長より転落発生数に関する背景や発生事例を分析・再発防止策を共有していることの追加説明があり、理解できた)。事例分類の中で、「その他」に分類される例がある程度数となっているので、再発防止の視点から具体的な内容を周知・把握できるようにしてはどうか。

また、心肺停止や意識障害等緊急性を要する事態の発生に際し、全館放送による「エマージェンシーコール」で医師・看護師が発生現場へ急行するシステムが機能しており、優れた対応といえる。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委員会としても3と判定する。(評価3:6人、評価4:1人)

観点2-2 感染症や食中毒防止への取組み

該当する研修会を通じて職員へは注意喚起し、対応策を伝えているようであるが、全職員が受講しているかどうかを確認し、受講率100%にする努力が必要である。

リハビリ職員や歯科衛生士の関与による誤嚥性肺炎予防の日常的な取組みは、重要であるので、引き続き実施するように。インフルエンザの発生時には、予防投与を実施するなどして感染拡大に努めている。また、これまでノロウイルス感染の発生はないとのことだが、引き続き感染防止対策を徹底して欲しい。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委員会としても3と判定する。(評価3:6人、評価4:1人)

観点2-3 利用者のリフレッシュや地域・ボランティア団体との連携・協力

地域との連携やボランティア団体との協力は、総体的に活発に取り組んでいると判断できる。特に保育園児との幼老交流はケアセンターの特異的で優れた取組みといえる。また、センター長が主導する詩吟教室も特徴的

である。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委員会としては4と判定する。(評価3:2人、評価4:4人、評価5:1人)

観点2-4 医療機関との連携に関する取組み

こずかた診療所との連携がうまく機能しており、家族・利用者にとっても安心と思われる。観点2-1でも述べたが、緊急時のエマージェンシーコールは引き続き機能させて欲しい取組みである。また、病院での治療が必要な症例では、同じ法人経営の南昌病院へ依頼するなどの他、盛岡赤十字病院、岩手医大附属病院、岩手県立中央病院等へも適宜紹介している。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委員会としても3と判定する。(評価3:4人、評価4:3人)

観点2-5 看取りへの取組み

看取りの説明書や同意書の作成と運用など、適切に取り組んでいる。施設での看取りの必要性が高まっていることから、今後も積極的に取り組んで欲しい。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委員会としても3と判定する。(評価3:7人)

観点2-6 提供している食事内容の妥当性や食事摂取促進への取組み

アンケート調査の結果から、提供されている食事への満足度は高いことが読み取れる。また、検査は多くの職種が持ち回りで実施している点は特徴的であり、職員の食事に対する意識変革に寄与しているようである。食事中にムセる人や摂取量の少ない人など、食事摂取に問題を有する人に対しては、多職種でミールラウンドを実施し、皆で意見を出し合って改善を図っている点もすぐれた取組みといえる。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委員会としても3と判定する。(評価3:5人、評価4:2人)

観点3 人材育成への取組み

法人としての一括採用の他にケアセンターとしての採用もあるが、ケアセンターでの採用では事前に複数による面接のほか、職種によっては小論文を課しており、優れた人材の獲得に努力しているようである。また、全職員に対して必要経費をケアセンターが負担し、外部研修参加の機会を積極的に提供しており、毎年参加者が多く立派である。更に、キャリアアップや資格取得の研修会への参加、学会での研究発表も積極的に促しており、職員の資質向上やモチベーションアップに寄与していることが伺える。加えて、学会発表に伴い倫理委員会での事前審査を実施していることは模範的であり、特筆できる点である。

ケアセンター職員の育成とは別に、県内外の大学や専門学校、高校などから実習する学生、生徒を積極的に

受け入れている。確立された指導体制のもと、担当者
を指定し、きちんと対応している点も優れている。

その一方で、育成しつつある職員の退職が散見され
るのは残念である。特に介護系の人材不足は県内でも
深刻な状態になりつつあるので、職場環境に配慮しつ
つ退職者を出さない工夫が求められる。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委
員会としても3と判定する。(評価3:4人、評価4:3人)

観点4 職員の健康管理への取組み

法律に定められた定期健康診断、ストレスチェックは
実施されているが、実施した後の分析やフォローをしつ
かり行い、職場環境や労働時間の改善に資することが
管理者に求められる。更に、医師の有給休暇取得がゼ
ロである点は気になる点であり、有給休暇取得の職
種間差をなくすことや夏季休暇の取得率を上げること、
残業を削減することなどは、事業所として前向きに取組
む必要がある。

また、インフルエンザワクチン接種率を上げることや、B
型肝炎、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎等の抗体価確認
とそれに則ったワクチン接種も考慮すると良いであろう。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、評価委
員会としても3と判定する。(評価3:6人、評価4:1人)

観点5 防火・減災への取組み

災害発生時の対応マニュアルの策定やケアセンター
内の消防設備の定期点検実施、毎年2回の防火・防災
訓練の実施、職員の防火管理者・防災管理者の育成な
ど、適切に実施されている。自然災害による人的被害
が各地で散見されており、引き続き積極的に取組んで欲
しい。

一方、岩手県災害派遣福祉チームとして「チーム南
昌」を組織し、災害による被災地へ出向き支援活動
を行っていることや、県内被災地の被災者や町内避難者
の一部を受け入れた実績を有している点は、卓越した取
組みといえる。

以上により、本観点の自己評価は4であるが、評価委
員会としても4と判定する。(評価3:2人、評価4:2人、
評価5:3人)

観点6 業務の改善や安定的経営、経費節減への取組み

職員一人ひとりが日常業務を行う上でのコスト意識
は経営母体の安定を維持するためにも重要である。ケ
アセンターでは毎月開催されている事業運営会議(管理
者、役職員が参加)で各事業所の利用状況と実績を提
示し、利用者確保に向けた検討を行っている他、事業
所ごとに毎年度事業目標を設定し、事業を行いながら
進捗状況を点検している点は相応の努力と考えられる。
また、毎年職員から事業の効率化や経費節減に資する
アイデアを募集し、顕彰と同時にいくつかを実践して
いる点は優れた取組みである。

常置的な委員会を設置し、各種業務の円滑な推進を

図っていることや、「ケアセンター南昌創造的プロジェク
ト」8つを立ち上げ、これまでの5年間の実績を踏まえな
がら、今後のケアセンターの中・長期的展望の策定に着
手していることから、その推移を見守りたい。

なお、経費節減の活動では、水道費の削減が特記で
きるものの、取組みの効果をもう少し可視化する(具体
的な効果の提示や節約できた金額など)ことで、職員の
意識改革にもなるのではないかと。

以上により、本観点の自己評価は4であるが、評価委
員会としても4と判定する。(評価3:5人、評価4:2人)

観点7 不適切事案等の発生とその対応等について

業務中の交通事故や職場内での各種ハラスメント等、
不適切事案については真摯に対応しているが、その発
生を極力防止する努力が必要である。発生時には被害
の拡大や影響を最小限度に抑えることも重要である。
職員の教育・研修やOJT等への取組みも肝要といえる。

この観点に関しては、自己評価書を通読するに留めて
おき、委員会としての評価は行わない。

Ⅲ 総括

自己点検評価は10年程前から我が国においても一
部の領域で定着しつつあり、PDCAサイクルを効果的に
稼働させるためには不可避の手段となっている。行政
や教育機関においては、年度毎あるいは5~7年に一
度実施されている。医療機関においては病院機能評価
を通じて質を担保する体制が整っている。しかし、多く
の介護領域においては、未発達であり、法律での義務
付けはなく、事業の質の保証は、行政の实地指導など
が一部分でその役割を担っている。

評価は事業や活動を改善し、より良いものにするた
めの一つのステップであり、順番付けやランク付けでは
ない。更に、評価なくして次の目標は設定し難く、実現
できないとまで言われている。

現実社会に眼を向けると、平成30年4月から医療保
険や介護保険制度が改定され、国は医療や介護に要す
る経費の削減に一層ベクトルを向け、我々の環境の厳し
さが増したといえる。このような中で、ケアセンター南
昌が現在地に開設してから5年経過した時期を捉え、次
の5年あるいはその先を視野に入れつつ、自己評価を
実施し、我々外部の評価委員に点検を依頼したことは
時に叶った対応といえ、敬意を表したい。

今回の外部評価を踏まえ、将来に向けしっかりした目
標を掲げ、地域の方々に喜ばれる施設となり、安定的な
経営のもと、社会に一層貢献してくれることを委員一同
切に期待する次第である。

職場紹介

笑顔で…自宅で…生活が合言葉 ＝南昌病院＝一般病棟＝

当病棟の概要は、病床数37床で、一般病床が17床、地域包括ケア病床が20床となっています。2017年9月から地域包括ケア病床を増床し20床として、一層の地域貢献を目指しています。スタッフは、看護師21人と看護補助者10人(歯科衛生士・介護福祉士・クラーク・介護士)が勤務しています。急性期の病院や近隣のクリニック・地域住民・介護施設等からの紹介患者が多くいます。福祉サービスが必要な高齢世帯の患者も多く、できるだけ在宅へ復帰できるようにスタッフ一同支援しています。また、緊急の入院も24時間365日受け入れている病棟です。

◆**病棟の役割**: 私たちの役割は、なんといっても迅速な病状把握と同時的確な判断に加え適切性が求められます。診療・看護・リハビリテーション・栄養などが1つのチームとなって医療を提供します。最も注意しているのは、安全対策と感染防止です。超高齢化社会へ突入して、入院患者は100歳でも手術してリハビリテーションをし、自宅へ戻る時代となりました。このような方を支えるのが私達一般病棟スタッフの役割です。

◆**医療安全対策**: 医師の指示を安全かつ確実に実践するために、多職種で構成されている医療安全対策委員会を中心として、事例検討や発生原因の究明、身体抑制廃止等について、頻りにカンファレンスを行ないながらスタッフ間で情報共有や協力し合って安全業務を励行しています。

◆**退院支援**: 病気によって低下した身体機能やセルフケアの早期回復や予防に、多職種と連携し「家に帰りたい」との希望を、叶えなければなりません。病気回復に影響する食事・排泄機能・歩行の維持は、人間なら誰でも望んでいます。そのための工夫や早期治療が回復へ

の近道です。元気になって退院することが私たちのやりがいと達成感になっています。

◆急性期病院からの転院等による環境の変化によって、高齢者特有の「せん妄」症状が出現する患者も多くいます。「自宅に帰りたい」との思いが強く、食事の拒否や一晩中起きているという症状で、そのような時は、特に患者に寄り添い、話を聴くなど落ち着くまで待つことがベストなケアです。特に夜間に多く発生しますが、ここは、看護のプロとして柔軟な対応ができるように、せん妄や認知症ケアの勉強会、カンファレンスなどを行っています。

私たちは、患者の容態を看ながら臨機応変に対処して、笑顔で自宅での生活ができるよう、より一層の支援のため日々奮闘中です。



スタッフ紹介

「より良いケアに日々努力!!」

初めまして。グループホーム若園荘に勤務し3年10ヶ月、今年介護福祉士になった佐々木と申します。私が介護福祉士になったきっかけは友人の一言です。「佐々木さんも介護福祉士受けてみて。大丈夫、私が全面的にバックアップするから。」と言ってくれたことです。

それまで漠然と介護の仕事をしていましたが、「私にも出来るかも…」と思い勉強を始めました。ところがしばらく勉強と言う勉強もしてこなかった上に、年も取っている為中々頭に入ってきません。自分の無力さに毎日落ち込み、ストレスもたま一方でした。しかし友人はいつも私を励まし背中を押してくれました。娘たちに愚痴る事もしばしばありました。「いんだ、その年で受けようと思うだけでも凄いんだから。」と言ってくれました。友人や娘たちの励ましに支えられ「や

れるだけやろう。ダメならダメでしょうがない。自分の人生だ。誰も代わってくれないぞ。」とノートに書き込みそれを目標に頑張りました。おかげさまで何とか合格し、証書を頂いた時はとても感動しました。

人は誰かに支えられて生きています。私は良き友人や娘たちに支えられました。今度は私が利用者を支えていく番です。私は介護士から介護福祉士になれたことに感謝しています。この感謝の気持ちを忘れず奢らずグループホーム若園荘の一員として利用者により良い対応、ケアが出来る様に日々努力して行きたいと思っています。ここが終点ではなくここから出発です。



若園荘
介護福祉士
佐々木 律子

「働く女性職員を応援!!」

医療法人社団帰厚堂は「いわて女性活躍認定企業等（ステップ2）」に認定されました。昨年の12月6日付けで岩手県知事から認定書が交付されました。これは、女性の活躍と子育てなどを支援している企業等を認定するものです。

医療法人社団帰厚堂は、働く女性職員を応援しています！



各施設から 敬愛荘

施設紹介

介護老人保健施設：病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設です。入所等の相談は気兼ねなく支援相談員までご連絡ください。

第16回 南昌福祉の里 文化祭 ～美味しい食事と懐かしい歌にのせて～

10月13日に文化祭が開催されました。利用者は前日から「楽しみだな～」、「いっぱい来るかな？」等話して楽しみにしていました。文化祭当日はご家族も沢山来荘されました。利用者はご家族や職員と一緒に作品などを見て周り荘内は大変賑わいました。利用者からは、「これ私が作ったんだけど上手く出来てますか？」と質問があり「上手に出来てますよ」と答えると「ありがとう」と満面の笑顔を見せてくれました。表千家による抹茶と和菓子、喫茶コーナーではケーキやアイスなど色々な食事をしながら会話を楽しんでいました。出来立ての抹茶は「苦くない。飲みやすく美味しいよ」と大変好評で大盛況でした。



午後の部は、昨年も敬愛荘に来荘してくれた三浦わたるさんによる歌謡ショーが行われました。利用者も知っている曲を沢山選んで来て頂き利用者の間を回り握手をしながら一緒に歌っていました。また利用者や職員からのリクエストにも対応してくれました。1時間という短い時間帯で沢山の曲を歌ってくれました。会場は三浦わたるさんの歌声に聞き惚れたり握手をしたりと利用者、ご家族共に大盛り上がりでした。文化祭後は、「家族と一緒に色々な作品を観られて良かった」、「屋台巡りや沢山の食べ物を食べて美味かったよ」など様々な感想が聞かれました。三浦わたるさんにも「懐かしい歌がいっぱい聴けてよかった」、「また来年も来てくれるかな？」と楽しみにしている声がたくさん聞かれました。



三浦わたる様歌謡ショー

冬の大運動会 ～寒さを吹き飛ばす熱気につつまれて～



白百合グループの皆さんが来荘され利用者が2組に分かれて玉入れ、綱引きで競い合いました。綱引きでは「せーの!」、「よいしょ!」と掛け声が食堂に響き渡りました。負けず嫌いの利用者が多くみんな必死になって取り組んでいました。



〈10月～12月の誕生会で一緒にお祝いしてくれたボランティア様〉

10月…こぶしの会様

11月…初代ミスさんさ佐々木秀子様、さんさ好みの皆様

12月…盛岡チャペル様

美味しく食事食べる為に ～ミールラウンド～

利用者の中には食物を口へ運ぶ、噛む、飲み込む等が難しくなり食事中にムセがみられるなど安全に食べ難くなった状態で食事をしていることがあります。ミールラウンドでは医師、看護師、介護士、理学・作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士が実際の食事場面を観察し何が問題となっているかを評価します。どうすれば誤嚥のリスクを軽減し安全に継続して食事出来るかをその場で話し合い今後の取り組みを決定します。話し合いの中では多職種がそれぞれに食事場面で気になっていることを出し合い検討内容に反映させます。食べることを楽しみにしている利用者は多くいます。これからも安全に美味しく食事を続けて摂れるように関わっていきます。



志和荘

施設紹介

特別養護老人ホーム：常に介護が必要で自宅では介護ができない方が対象の施設です。

【生け花サークル～長い間ありがとうございました～】

10月11日(木)、ボランティアで生け花をご指導下さっていた田村千佳子先生が勇退されました。22年の長きに渡り、生け花の楽しさ・奥深さを教えていただきました。毎月第3水曜日にサークルメンバーが集まり思い思いに花を生け、そこに先生が色々な方法を教えてくれる事により、何倍も素晴らしい作品になりました。先生にお逢いできる月1回のサークルを皆さん心待ちにしていました。田村先生、長い間ありがとうございました。



【南昌福祉の里 文化祭】



10月13日(土) 南昌福祉の里文化祭を開催しました。今年のステージイベントは、双葉会の皆さんによる歌や踊りでした。素晴らしい歌声と、股旅舞踊での美しい流し眼に魅了されました。

入居者・職員で作りました作品も趣向を凝らし、とても見ごたえがありました。ご家族・職員持ち寄りのバザーも大好評で、早いうちに品物がなくなる盛況ぶりでした。



あと、忘れちゃならないのが美味しいお食事！！うす焼き・大判焼き・味噌おにぎり・大根田楽・焼き鳥・たこ焼き・ケーキ…どれも美味しそうでした。今回は眺めるだけでしたが、次回こそは全種類制覇したいともくろむ筆者でした(笑) 皆さんもいらして下さい～！

ご協力いただいたご家族、地域の皆さん、ボランティアの皆さんありがとうございました。



【栄養士プレゼンツ 調理レク】



管理栄養士の遠藤の呼びかけで、各ユニットで調理レクを行いました。現在、感染症予防対策のため、皆で集まる行事やサークルは見合わせていますので、ユニット単位でのレクを楽しみや気分転換のために企画しています。

一例を紹介します。11/16すずらん町(クレープ)・11/28さくら町(焼き芋)・12/6さきょう町(チョコレートフォンデュ)・12/10ひまわり町(鍋)・12/12まつ町(おしるこ)・12/14たけ町(プリンアラモード)等々、何とも美味しそうな物ばかりです。やはり昔取った杵柄！お玉や泡立て器を持つ手は慣れたものでした。

皆さん「自分達で作ったものは格別！」と喜んで頼張っていました。次は何を作りますか～？



一人ひとりに合った支援 リハビリテーション

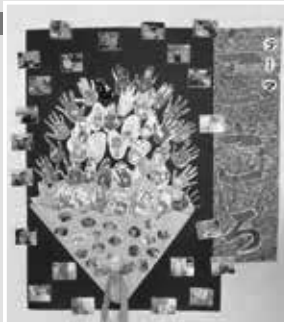
専門スタッフがチームを組んで集中的にリハビリを実施

365日リハビリテーション提供!! (回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病床)

●南昌病院 ●敬愛荘 ●博愛荘 ●訪問リハビリテーションこずかた……

リハスタッフ総勢83名(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)、(ほかに臨床心理士)

10月13日 (文化祭)



南昌福祉の里文化祭が行われ、悠和荘ではテーマを「こころ」に決め、全体作品では手形で作った花束を作りました。温かい作品に仕上がりに見ているお客さんからも「素敵だね」と言ってもらいました。

ステージでは不来方高校合唱部OBがつくる「コーロ・フェリーチェ」という団体の方々が透き通った歌声を披露してくれました。童謡の、「もみじ」の他に「夢見たものは」「川の流れるように」など透き通った歌声を目の前で聴けて、心が洗われました。歌うとても良いですね。入居者の皆さんは目を細めて聴き入っていました。

さらにこの日、ふどうこども園のこどもたちも遊びに来てくれました。若いエネルギーを沢山浴びました。めんけかったなあ〜。



ユニットリーダー研修に参加して

3日間の座学を終え11月末に花巻の特養ホームにて4日間の実地研修に参加しました。1日の流れを観察する研修スタイルに最初は困惑しましたが、慣れて来ると入居者の表情がよく分かりました。24時間シートを基本にしたユニットケアによって、本人の意思が尊重された暮らしの継続が可能になる事を学んできました。また、施設理念を具現化する取り組みが徹底している事にも驚きました。先頭に立つ施設長に続くユニットリーダーの役割も大きく、トップダウンだけで指示せず、意見を求めて皆で納得して取り組んで行く姿勢が大切である事を理解しました。学んで来た事はきっちりと報告書にまとめて悠和荘のユニットケアの現場で実践したいと思います。経験値を上げる機会を頂きありがとうございました。(井上)

11月7日 (意見交換会)

施設長、各職種の職員で月に1回ユニットごとに意見交換会を行っています。

10月26日に矢巾中央幼稚園の子ども達が来荘してくれた時を振り返り、「こどもたち、可愛かったなあ〜」とお話されていました。また来てくれると嬉しいです。2019年も楽しみです。



11月8日 (夜間想定避難訓練)

夜間帯は限られた職員人数での避難誘導になるため、非常ベルが鳴った時点で火災通報ボタンを押し、一早く消防署へ連絡することなどを再確認しました。



12月25日 (クリスマス会)



白石食品工業株式会社のご厚意により、盛岡市及び同市近郊に所在する社会福祉施設にクリスマスケーキを贈呈していただきました。

毎年、入居者全員で立派なケーキを見て目を輝かせて喜んでいました。写真のとおり、みなさんの嬉しい表情が今年もみられました。このような取り組みを行っている白石食品工業の皆さん、誠にありがとうございます。



●悠和荘の新ユニット増設工事の経過報告です●

10月から工事を始めた増設部分はブルーシートで覆われ外から見えないので、どこまで出来ているのかととても気になります。今回は写真を入手したので、ちょっとだけ紹介します。内部は壁や天井ボードなど、ほぼユニットの形が見える状態になって来ました。この中央空間はリビング(食堂)となる予定です。工事は予定通りに進んでいるようです。2月末の完成がとても楽しみです。



※12月1日から面会制限を開始しております。入居者の健康を最優先に考え、感染症対策のため、12月1日(土)から面会をご遠慮いただいています。皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

ケアセンター南昌での主な取組み (H30:10~12)

【なかよしこよしの会 (絵本や紙芝居の読み聞かせ)】 (DSつむぎ)(こずかた保育園)

昨年6月から、デイサービスつむぎの利用者による、こずかた保育園園児への紙芝居や絵本の読み聞かせ「なかよしこよしの会」が始まりました。交流会は、月1回(行事などによってない月もあります)の交流となり、利用者の皆さんは、子供たちのために絵本・紙芝居を選び、練習し、子供たちは「次はどんなお話かな〜?」と交流の日を楽しみにしています。

当日は、数名の利用者が交換で読み聞かせをし、それぞれに味わいのある、素晴らしい読み聞かせで、子供達からは「〇〇でよかったね〜」「〇〇はどうしてなの?」など賑やかな声が上がっていました。

読み聞かせの後は、手遊びや歌、遊戯等ふれあい交流を楽しみ、みんなの笑顔の輪が広がり温かい気持ちでなかよしこよしができました。



【紅葉狩りバスハイク】 (博愛荘)(敬寿荘)

【博愛荘】

昨年10月下旬、恒例の紅葉狩りにラフランス温泉館まで行ってきました。利用者からは道中、「どこさ向かっているの?」「見たことある場所だな。」等々、矢巾、紫波町内の出身者からは見覚えのある風景を懐かしむ声も聞かれました。

到着後は、間近で見る東根山を前に、「岩手山か?」「いや南昌山だな。」「昔は岩手山から東根山までよく歩いたな(?)」「せっかくだから温泉さ入っていくべ。」等々昔話(?)や珍回答も聞かれ、職員と一緒に東根山の麓で秋の訪れを楽しんできました。

【敬寿荘】

10月は秋のバスハイクで、盛岡手づくり村に行きおせんべいを焼いたり買い物をしたりしてきました。当日は天候にも恵まれ、また、ボランティアの方々の協力もあり、楽しく過ごすことができました。



【わんパフェスタ2018開催!矢巾わんわんパトロール隊】 (地域包括支援センター)

矢巾町地域包括支援センターが事務局を務める「矢巾わんわんパトロール隊」が11月4日(日)に「わんパフェスタ2018」を開催しました。わんパト隊は町内の愛犬家によって結成されたボランティアグループで、毎日の散歩の時間を活かして地域の見守り活動を行っています。

当日は専門家による「しつけ教室」や「お手入れ教室」が行われたほか、わんちゃんのおやつや洋服を販売するお店も出店し、多くの来場者が愛犬との楽しい時間を過ごしました。わんパト隊は「人も動物も幸せな矢巾町」を目指して、愛護活動にも積極的に取り組んでいく予定です。今後のわんパト隊の活動にぜひご注目ください!

また、一緒に活動してくれる隊員も随時募集中です。ご興味のある方は矢巾町地域包括支援センターまで連絡ください。



【家族会】 (敬寿荘)

11月18日(日)30年度2回目の家族会が開催されました。始めに認知症サポーター講座を参加のご家族に受けて頂き、その後入居者も入りクリスマスツリー作りをしました。認知症サポーター講座では、沢山のご家族が参加し認知症について学んで頂きました。家族会で作品作りは初の試みでしたが、みんなで協力し合いとてもかわいい作品となりました。

昼食会にて、「あかり」より折詰めを作って頂き、職員が普段調理している豚汁等もご家族に食べていただきました。入居者・ご家族そして職員の交流の場となりとても充実した家族会となりました。



【クリスマス会】 (SSやはば)

12月18日にクリスマス会を開催しました。この日、利用者はサンタの帽子を被り、職員は仮装して参加しました。最初はジェスチャーゲームを行ない、職員がお題に沿って様々な動作を演じます。皆さん「何だ?」と考えながらも、職員の動作に大きな声で答えていました。続いて、全員でクリスマスや冬に関する歌を元気に唄いました。最後はサンタさんからのクリスマスプレゼントをもらい、いっぱい笑顔が見られました。



【矢巾町福祉まつり】 (DSつむぎ)

10月21日(日) さわかかハウスで行われた福祉祭りでは地域密着型サービス事業所の展示スペースにて、ペーパーワイリング教室を開催いたしました。マグネットに思い思いの装飾をするのですが、小さな子供の姿も多く盛況でした。3年目ということで、楽しみにしてきたという、うれしい顔ぶれがありました。また、サプライズで急きょ高橋昌造町長も参加され、充実した教室となりました。



【デイケアの午後…集団体操とレクリエーション!】

今回はデイケアの午後の活動【集団体操】と【レクリエーション】を紹介します。午後の活動は2時からの集団体操から始まります。リハ職だけでなく、介護職員による、より機能的な運動を目指してはじまった集団体操も、時が過ぎるのは早いもので1年が経過しました。集団体操は利用者と職員に定着し、利用者の皆さんとの会話を楽しみながら行なっています。それでは、内容をご紹介します!!

【お約束】 ★ 出来る範囲、痛みのない範囲で無理せず行ないましょう。

★ 呼吸を止めずゆったりと呼吸をしながら行ないましょう。(血圧が上がってしまうため)

★ 数えながらやると呼吸を止めずに出来るので、一緒に数を数えましょう。

『デイケアリハビリ体操』

深呼吸3回

- ① 肩と首の体操
- ② 上半身の運動
- ③ 脚を組んで体をひねる運動
- ④ お尻を左右交互に持ち上げる運動
- ⑤ 太ももの筋肉を鍛える運動
- ⑥ 内ももの筋肉を鍛える運動
- ⑦ 肘と膝のタッチ
- ⑧ 肘と膝のタッチ (交叉)



深呼吸3回

★ ①～⑧まで一通り行なうと体も温まり、担当職員も汗をかきながら行なっています。体操の後は、今月の歌を全員で歌いレクリエーションに移ります。

レクリエーションは多種多様、それぞれ利用者がやりたい活動に参加します。

- ・麻雀・カラオケ・テレビゲーム (Wii)
- ・作業 (刺し子・塗り絵・ちぎり絵・季節の工作 等)
- ・ゲーム (輪投げ・スカットボール・玉入れ・風船バレー 等)



【特別レクリエーション】

○ちぎり絵 (ボランティアで月1回先生がいらしています)

○詩吟教室 (毎週火曜日、吉岡尚文センター長が講師で行なっています)

★ さらに、季節のイベント行事も行っています。…夏祭り、クリスマス会、年末運動会

今年も利用される皆さんと元気に楽しく過ごせるようリハビリ・看護・介護スタッフ一同で努力していきたいと思っております!!

【食育 (さつま芋掘り・焼き芋会・おにぎりパーティー)】 (こずかた保育園)



10月18日(水)秋晴れのなか5月に植えたさつま芋の収穫に4、5歳児が間野々の畑に出かけました。どんなお芋が出て来るのか期待を込めてつるを「うんとこしょ」と引っ張り、絵本に出て来るような大きなお芋を収穫約40kgでした。そのお芋を10月23日(火)こずかたランドで焼き芋会を実施。自分たちで掘って、くるんで焼き上がり待ち、アツアツ、ホクホクのお芋をフーフーして美味しく食べました。



12月5日(水)5月にバケツに植えた稲を収穫し、精米したお米を自分たちでとぎ、釜に入れて待つこと45分!ほかほかのごはんをラップに包んで、のりおにぎり、鮭おにぎり、炊き込みおにぎりをにぎにぎ!小さい組のお友だちの分も握ってお裾分け!「おいしいね!」とおかわりして食べました。大地の恵みに感謝、感謝。心もお腹も満腹のクッキングでした。

【お買い物レク】 (博愛荘)

昨年11月にお買い物レクで、盛岡南イオンにお出掛けしてきました。昼食はイオンで高級寿司をいただきました。イオン内は広く、利用者が長い距離を歩けるか不安でしたが、心配無用と目を輝かせながら歩いていました。

イオンの後は、岩山展望台に向かいました。天気が悪く見晴らしはいまいちでしたが、普段、お出掛けする機会の少ない利用者からは「はじめて来たじゃ。」「いい思い出ができたよ。」等々感想もぎかれしました。業務の一環ではありましたが、職員、利用者共にリフレッシュするよい機会となりました。



【ハロウィーン】 (博愛荘)

昨年10月31日にハロウィーンイベントがあり、こずかた保育園の子供達が訪問してきました。「Trick or treat(トリックオアトリート) お菓子をくれないといたずらしちゃうぞ」の子供達の掛け声に利用者から、「めんけーね」「こっちおいで」等々聞かれ、普段は見せない表情をみせていました。



博愛荘に入所している利用者は、90歳以上の方も多く、ハロウィーンを知らない方も多数いましたが、お菓子をあげながら子供達とのふれあいを喜んでいました。



恒和荘

施設紹介

小規模多機能型居宅介護事業所：小規模な住宅型の施設で、通いのほか、訪問、短期間の宿泊などを組み合わせて食事、入浴などの介護や支援が受けられる施設です。盛岡市在住者が対象です。

地域との交流

10月29、30日の2日間、城東中学校2学年3名の職場体験学習を受け入れました。働くことの意義や価値を学び、職業の世界を通して、ものの見方や考え方を広げ、実際に体験することで「生きる力」を培うことを目的とした職場体験であり、職員と一緒に食事の配膳、おやつ作り、レクリエーション等を通してコミュニケーションを図り、介護を体験していただきました。体験後の生徒の感想として、恒和荘は「あったかい、安心、安全だと思った」との意見があり、介護職に少しでも興味をもってもらえたのではと感じています。



12月3日は、山王小学校の児童22名が来荘し、グループ発表やむかし遊びで交流し、利用者は「子供はやっぱりかわいい、自分達が若返った」と楽しい時間を過ごしました。また、12月8日は、城東中学校16名が来荘し、少し早いクリスマス会を開催しました。

今後も住み慣れた地域で、地域住民と交流しながら安心して暮らしていけるように地域の介護施設としてお手伝いさせていただきたいと思ひます。

紅葉狩り～網張温泉へ～

10月19日、網張温泉へ紅葉狩りに行って来ました。昨年は天気に恵まれず、外を散策することが出来ませんでした。今回はどうなるかとドキドキしていましたが、当日は網張温泉に近づくにつれて天気が良く、紅葉も見頃！きれいな景色を見ることができました。「ちょっと熱いねー」と言いながら足湯に浸かり、ポカポカになりました。帰りには、松ぼっくりでジェラートを食べ、お腹も大満足。「もう1回行きたい！」と言う方もいて、笑顔あふれるバスハイクとなりました。



クリスマス会

12月15日にクリスマス会を開催しました。オープニングを飾ってくれたのは小学生のダンスパフォーマンス！かわいらしい姿に魅了された後、職員の余興としてハンドベルの演奏を行ないました。会場の皆さんがうっとりするような演奏をするはずでしたが、緊張して間違ふ職員もあり、それが笑いを誘って大変盛り上がりしました。「ジングルベル」「きらきら星」「ドレミの歌」の3曲を演奏しました。毎年恒例のビンゴ大会では参加者全員が景品を獲得できました。地域の方々や小・中学生、たくさんの方の参加がありました。帰り際には「楽しかった」「きれいな演奏でしたよ」と感想をいただきました。



今日のお昼は...

利用者職員で、イオンのフードコートや回転寿司へ昼食を食べに行きました。イオンでは、何を食べても悩みに悩んで、ラーメンや牛丼を食べました。回転寿司では、普段は少食の利用者が、いつもより多めに食べる姿がみられました。お寿司の他にもラーメン、茶碗蒸し、デザート...とお腹いっぱいでした。久しぶりの外食に皆さんとても喜んでいました。良い気分転換になりました。



茶碗蒸しもおいしいよ～

♪ お茶会へどうぞ ♪

11月のお茶会は、24日(土)に岩手女子高校合唱部の生徒と先生11名が来荘しました。地域の方々、利用者、合わせて31人が参加し、学生のきれいな歌声やハモリに聴き入っていました。歌を口ずさんだり、リズムに乗っている方がたくさんいました。終了後には、おやつを食べながら、学生と地域の方が交流を図りました。一昨年も11月に合唱部のボランティアがありまして、若い力をいただきました。(お茶会は毎月第4土曜日の14時から開催しております。)



～岩手県認知症セミナーに参加して～

51歳で若年性認知症の病気になられた方が講師として自らの苦悩の日々、またそれを乗り越え、現在に至っている内容の話をしてくださいました。

発病当初は、自分の物を紛失したり、味覚が分からなくなったり、家族の顔も自分の家も忘れてしまい、お金を払うこともできなくなってしまったこと。そんな日々の繰り返しの中、人と話す緊張し、自分の病気が他人に知られたらどうしよう、見る目が変わるのではないかと不安な気持ちになったり、人と接することができなくなってきたこと、また自分の感情をコントロールできず、限界を感じる日々を送ってきたこと、できないことを見透かされている

のではという思いに苦しんだことなど語られました。そんな中、生活面など様々なサポートをしてくださる方との出会いを通し、前向きに病気と向き合えるようになってきたそうです。自らの経験、体験の話を通し、多くの方に若年性認知症への偏見をなくし、正しく理解してほしいという思いがとても伝わってきました。

家族、地域社会の理解がとても重要であること、できないのではなく時間をかければできることも知ってほしいという言葉が印象に残りました。誰しも突然、若年性認知症と診断されたら当事者も家族も大きな衝撃を受け、戸惑い、この現実を受けにはかなり時間がかかると思いました。発症しないだろうと軽く考えずに理解を深めていく必要があると思ひました。(立川目)

私達東京オリンピックめざしています



去る12月22日クリスマス会が行われました。今年はゲーム大会となり利用者の代表が「私達は愛と誠の精神にのっとり、優しさと思いやりの心で正々堂々と戦うことを誓います。」と力強く選手宣言をし、スタートしました。

利用者全員が紅白に別れて鉢巻をして風船バレーと玉入れの競技をしました。普段活発な方は一段と活発になり闘志を燃やし、静かな方は心の中でドキドキしているようでした。皆さん普段見られない表情や動きがあり新しい一面を見られました。大きな声を出し、大笑いし、また応援の職員のコスプレも見ものでした。アットホームな雰囲気の楽しい時間を過ごしました。勝負の結果は仲良く引き分けとなりました。競い合う事もいいことですね。



盛岡第二高等学校マンドリン・ギター部来荘

11月23日盛岡第二高等学校マンドリン・ギター部16名の生徒さんをお招きして秋の演奏会が行われました。マンドリンという楽器の名前は聞いたことがあると思いますが、バイオリンと同じ弦楽器でウクレレなど小さいものは高音が出て、コントラバスなど大きいものは低音が出るそうです。日本でいうと三味線も弦楽器に属します。

当日は「南部蝉しぐれ」や「丘を越えて」などアンコールを含め11曲を演奏して下さいました。利用者の皆さんは弦楽器の綺麗な音色にうっとりされていました。その後二高の生徒さん達とおやつを食べたのですが、利用者との交流が時間をオーバーするほど大変盛り上がりました。盛岡第二高等学校マンドリン・ギター部の皆さん大変ありがとうございました。またお越しく下さいね。



防火訓練

今回は消防署の方は呼ばずに、模擬避難訓練及び利用者と一緒にDVDを鑑賞し防火教育としました。

訓練内容は自動火災報知機が発報、初期消火、DVD鑑賞、消防機関へ通報する火災報知機設備、避難誘導などの説明を盛岡設備点検センターの協力のもと、実施しました。夜勤者が1人の時は慌てますし、装置の使用方法が分からずパニックになりがちなので日頃より慣れていること、理解している事が大事ですので職員もためになったと思います。



外出ってやっぱり楽しい



10月…網張温泉へ紅葉見物に出かけました。霧雨で散歩や足湯は楽しむまでにはいきませんが車窓の紅葉に「わあー」と歓声があがりました。レストランの食事や松ぼっくりのジェラードは美味しかったです。

11月…ユニット毎に外出に出かけました。2階は回転寿司へ。皆さん、わき目もふらずに5から6皿ぺろりと。最高マグロを中心に10皿完食(お腹は大丈夫でした)。3階はファミリーレストランへ。お寿司とお蕎麦のセットや天ぷらそばなど職員も負ける位の食欲がありました。

また、小規模多機能恒和荘よりお呼ばれがあり3回も出かけていきました。小学生や高校生との交流や近所の住民の方々との会話やゲームで盛り上がりまして。皆さん活き活きとされている姿を見ると「また、お元気で出かけましょうね」と声を掛けたくなり職員も元気になりました。



《がんと緩和ケアの講習に参加して》

ガンは2人に1人はかかるといわれています。予防することは出来るけども、完全には防げないものです。全国と平均して岩手県はがん検診率が低いそうです。緩和ケアとはがんの診断を受けた時、不安やいらだち、孤独感などの精神的苦痛や、痛みや日常生活に支障をきたすなどの身体的苦痛、仕事上や経済的での社会的苦痛などを早期に発見し的確なアセスメントを行うことで苦しみを和らげることだそうです。

しかし、緩和ケアの現状は正しい理解、周知が進んでおらず十分に医療に浸透していないそうです。患者との関わりを持っている他職種との情報共有を十分に取ることが大事だそうです。他職種との連携は介護にとっても大切です。例えば利用者とのコミュニケーションの中でその方の好きな物、されたくない事などを決め付けることなくそのものを知るきっかけになるのではないかと思います。(佐々木・櫻)

《環境整備・感染予防について》

今後は、インフルエンザ、ノロウイルスなど感染症対策強化がより一層必要な時期と考えます。そこで当事業所でも利用者の居室の加湿器について設置と利用者の敷布団のクリーニングについてご家族より了解を得て実施することとしました。

現在居室には加湿器の使用はしていません。安全で、衛生的な生活環境の提供として、除菌・脱臭をかねて超音波式噴霧器利用することにしました。レンタル料金は1ヶ月1,800円/11月から5月まで。

また敷布団は乾燥機を使用して参りましたが長期利用につき、1年に1度クリーニングを実施したい旨ご家族にお願いしました。1枚3,500円位とのことです。以上2点ともご家族の負担となりますが、皆さんにご理解頂きました。発病、受診を考えると予防になるのではないかと思います。

認定看護師の資格取得後の抱負

南昌病院 看護師 武田和弘

私は平成29年に「脳卒中リハビリテーション看護認定看護師」の資格を取得しました。認定看護師制度は、日本看護協会が定めた制度であり、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる認定看護師を社会に送り出すことにより、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的としています。

特定の看護分野は現在21分野ありますが、「脳卒中リハビリテーション看護」分野は2010年に認定が開始されました。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は2018年7月の時点で全国に719名いますが、岩手県には3名しかいません。そのため、認知度が浸透していないと思われるかもしれませんが、高齢化に伴い、脳卒中発症後に後遺症が残った状態で生活していく人が増加し、看護の必要性が高いと考えられる分野ではないかと感じております。

1. 統計でみる脳卒中

厚生労働省の死因別死亡数の割合によると、平成27年は、脳血管疾患は第4位とあります。また、厚生労働省の人口動態統計によると、平成27年における岩手県での脳卒中死亡数は全国でワースト1位となっています。さらに、厚生労働省の平成28年の国民基礎調査によると要介護5の方の介護が必要になった理由の第1位が脳血管疾患となっています。これらの統計から、脳血管疾患は、寝たきりの原因となり、岩手県においては、疾病予防に力を入れなければならない疾病だということがわかります。

2. 院内での役割

南昌病院は地域包括ケア病床と回復期リハビリ病棟があり、リハビリテーションに積極的に取り組んでいます。同様に、日常生活を支える看護師は、どのよ

うに関わったらより良いのか、多職種で話し合いをしながら日々頑張っております。患者への介入方法や余暇時間の有効な活用方法など、職員の相談を受けケアの一助になれば良いと感じています。また、相談を受けるだけではなく、私も積極的に患者の状態を把握し、患者やご家族が望む生活ができるように支援できれば良いと考えております。その方の退院後の生活を見据え、必要なケアを多職種で提供できるように調整し、在宅での生活にスムーズに移行できるように支援することが私の役割です。

3. 地域での活動

南昌病院は地域密着型の病院です。矢巾町を中心に地域の方々に出前講座をしております。内容としては生活習慣病の予防を主に伝えていきます。さらに、矢巾町健康福祉祭りへも参加し、そこでは主に血糖測定を実施し、糖尿病について説明しております。矢巾町の方々には糖尿病の罹患率が高いようです。糖尿病は脳卒中をはじめ、多くの疾患を悪化させる恐ろしい病気です。地域の方々に健康や疾病予防を意識していただくためにも、これらの機会を活用し伝えていければ良いと感じております。

4. 当院の特徴を活かして

資格を取得しまだ日が浅いですが、これまで述べてきた活動は一人ではできません。看護師はじめ、多職種の方々の協力がなければ患者に見合ったケアを提供できません。私は、南昌病院の良さは「職員の顔が見えやすい」という環境にあることとっております。「何かあれば〇〇さんに相談!」とタイムリーに気軽に、すぐ相談ができることは、チーム医療を提供するにあたり必要なことだと思います。これからも精進していきますので、よろしくお願いいたします。



紫波郡地域包括ケア推進支援センター「れんけいしわぐん」から

～ 紫波・矢巾両町共同設置の在宅療養連携拠点(医療介護連携支援センター)～

◆平成28年10月の事業開始以降、みなさんのご支援、ご協力をいただき、おかげさまで、丸2年が経過し、3年目に入りました。

◇本センター [URL:renkei-shiwagun.jp “れんけいしわぐん”] は、紫波町と矢巾町が在宅医療と介護の連携や地域包括ケアシステムの構築に共同で取組むこととして、紫波郡医師会が両町から本センターの運営を受託し、医療法人社団帰厚堂の職員がセンター運営の中心的な役割を担っています。

◇開設当初から、紫波郡医師会、紫波・矢巾両町の三者との密接な連携のもとに、在宅療養の医療介護資源(サービス提供事業所、マンパワー)の拡充や担い手の疲弊防止、多職種連携、ネットワークづくりなど、医療機関と介護事業所等の関係者の連携支援に取り組んでいます。

◆平成30年4月から12月にかけて実施した多職種連携研修を中心とする医療介護の連携支援の取組みは、次のとおりです。

◇在宅療養支援やネットワーク構築を進めるため開催した6回之多職種連携研修会等には、460人余の医療・介護関係者の参加をいただき、ありがとうございます。

○紫波・矢巾両町民生委員研修(8月～3回、134人参加)

岩手医科大学災害時地域医療支援教育センターを会場として、眞瀬智彦センター長(教授)等による地域包括ケアと医療介護連携、災害医療、避難所運営等に関する講義・演習のほかドクターヘリの見学を行いました。



○入退院・在宅療養支援等の医療介護連携研修(6月、87人参加)

医大・中央・日赤の基幹3病院、にいやま荘ケアマネ事業所のほか訪問看護ステーションやはば坂本由美子管理者から「アドバンス・ケア・プランニングなど人生の最終段階に向けた医療・ケアの取組みについて」5事例の報告、報告者による意見交換を行いました。



○かかりつけ医認知症対応力向上研修(10月、142人参加)

はこぎ脳神経外科クリニック箱崎誠司院長から「認知症治療におけるかかりつけ医の役割」、岩手医科大学医学部米澤久司准教授(こずかた診療所神経内科 非常勤医師兼任)から「認知症の早期発見と早期対応～MC1に着目して～」についてご講演いただきました。研修後の情報交流会には医師、歯科医医師をはじめ54人の多職種が参加し、交流歓談、懇親連携を深めました。

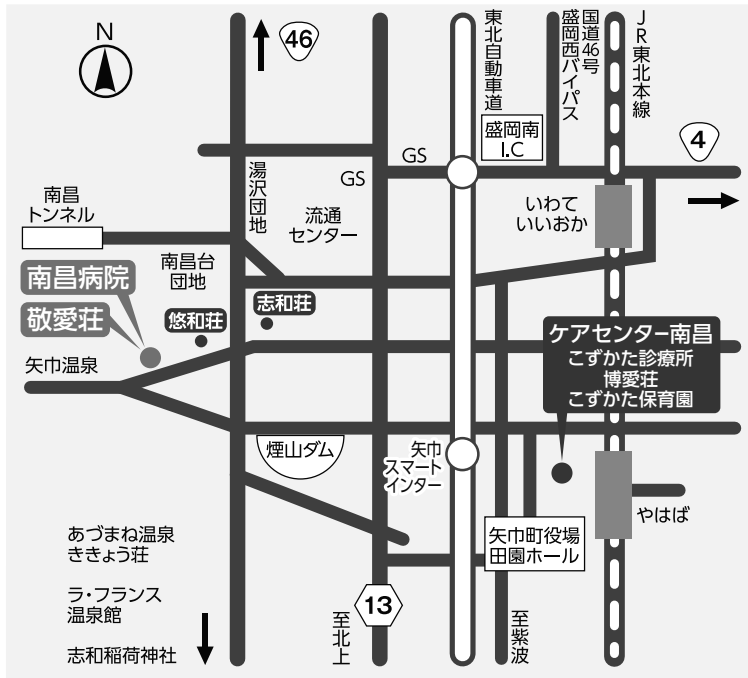


○在宅療養・多職種連携実践セミナー(11月、101人参加)

八幡平市国保西根病院望月泉統括院長(前県立中央病院院長)の「医療介護連携と地域包括ケアの推進」に関する講演のほか、10月に実施した多職種連携による訪問歯科診療(口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーション等)4世帯の支援実践等について、南昌病院佐藤典子神経内科部長・稲澤靖文言語聴覚士、巻藤佐智子歯科医師、担当ケアマネ4人から4件の事例報告があり、主治医や訪問歯科医師の皆さんの説明もいただきました。



矢巾町エリア



盛岡市エリア



南昌病院診療案内

診療時間 / 9:15~17:00

月	神経内科	佐藤 典子
火	内科	小原 進
水	脳神経外科	山口 一彦
	循環器内科	西城 精一
木	脳神経外科	齊木 巖
金	脳神経外科	齊木 巖

こずかた診療所診療案内

診療時間 / 9:00~17:30 (火曜日 19:00まで)

月~金	内科	三浦 秀悦
月・火(午前)	内科	足澤 輝夫
木(午前)	内科	市川 隆
金	神経内科	米澤 久司 / 高橋 純子

休診日: 土曜・日曜・祝日

編集後記

◆今年「亥」年。亥は、「がい」と「ごす」の意味が。草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態を表していると考えられます。後に覚えやすくするため、動物の「いのしし」が割り当てられました。亥の年は、これから始まる種の成長に備えて、個人は、知識を増やす、精神を育てる。組織は、人材育成や設備投資、財政等の基礎固めなど、外に向けての活動よりも、内部の充実を心がける年にとのこと。猪の肉は、栄養価が高く病気予防になることから、無病息災の象徴とされています。今年、健康で知識を増やし、次への飛躍を期して基盤を固める年ということでしょうか。5月には新天皇の即位、10連休、消費税10%も控えています。10連休は、働く者にとっては、うれしい反面、病院や施設では大変です。何とか知恵を絞り対処していかなくてはならない年になりそうです。

◆南昌病院は、昨年9月に日本医療機能評価機構が定める認定審査の訪問審査を受けました。主たる機能としてリハビリテーション病院として受審しました。昨年12月7日付けで、機構から認定されたとの通知が来ました。4度目の更新となりました。機構側からは、C判定(一定の水準に達しているとはいえない)はなく、全ての項目についてクリアしていました。S判定(秀でている)もありました。

医療法人社団 帰厚堂	■南昌病院	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-5211	FAX 019-697-5215
	■介護老人保健施設 敬愛荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-3288	FAX 019-697-0641
	■小規模多機能型居宅介護事業所 恒和荘	〒020-0805	盛岡市東新庄1丁目7-23	TEL 019-681-4166	FAX 019-604-1120
	■グループホーム 若園荘	〒020-0886	盛岡市若園町8-11	TEL 019-601-5501	FAX 019-604-1660
	■ケアセンター南昌	〒028-3614	紫波郡矢巾町又兵衛工新田5-335	TEL 019-698-2015	FAX 019-611-2071
	◆こずかた診療所			TEL 019-698-3033	FAX /
	○訪問リハビリテーションこずかた			TEL 019-611-1380	FAX /
	◆介護老人保健施設 博愛荘			TEL 019-698-2015	FAX / ※
	◆博愛荘デイケアセンター			TEL 019-697-1526	FAX /
	◆デイサービスつむぎ			TEL 019-698-2015	FAX / ※
	◆訪問看護ステーションやはば			TEL 019-698-1388	FAX /
	◆ヘルパーステーションやはば			TEL 019-698-1385	FAX /
	◆訪問入浴介護やはば			TEL 019-698-1385	FAX /
社会福祉法人 敬愛会	▲こずかた保育園			TEL 019-698-3008	FAX 019-611-0221
	▲矢巾町地域包括支援センター			TEL 019-611-2855	FAX 019-611-2937
	●特別養護老人ホーム 志和荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-100	TEL 019-697-6355	FAX 019-697-6356
	●地域密着型介護老人福祉施設 悠和荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-698-1661	FAX 019-698-1671
	●敬愛会老人デイサービスセンター	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-514	TEL 019-697-5953	FAX 019-697-7680
	●指定居宅介護支援事業所	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-697-0880	FAX 019-698-1671
	●矢巾町地域包括支援センター				
	さわやかハウス相談室	〒028-3615	紫波郡矢巾町南矢幅14-78	TEL 019-697-5570	FAX 019-697-5570

※ケアセンター南昌代表電話